

指定管理者管理運営評価シート

別紙 2

令和 2 年度

1 施設の概要

指定管理施設名 (施設所管課)	稲美町立いなみ野水辺の里公園 (教育政策部 生涯学習課)
指定管理者	NPO 法人 環境ユーイングてんま 代表者氏名 小村 徹
指定管理期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日
指定管理委託料	12,940,000 円 (令和 2 年度)

2 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画	実 績	自己評価
運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日数・開館時間等 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園の管理運営に関する規則第 2 条第 3 条を遵守した。 ・開館日数は 254 日(コロナ対策で通常より-53 日) ・閉館日数は 111 日 ・新型コロナウイルス感染症予防のため行政通達に従い令和 2 年 4/1~5/31 は休館とした。又、ホテル一般公開のため 5/23~6/10 の延べ 19 日間は規則に従い開園時間を 21 時まで延長した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常時は、毎月曜日休館で日数・時間とも問題なく適切であった。 ・新型コロナ緊急事態下で緊急的な閉館の処置は適切であった。 ・看板及び掲示により利用者に対し、周知徹底することができた。 ・閉館期間中も家族単位での利用者も多く駐車場開放は適切であった。 ・臨時閉館中も毎日の生き物の世話や事務処理のため、通常勤務は継続した。 ・ホテルの一般公開期間の時間延長は適切であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業、自主事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園指定管理者協定書並びに仕様書に従い本業務を実施した。具体的には下記事業を実施、参加者への支援指導を行った。 ・自然体験イベント・セミナーの実施 食育事業「我が家のお芋畑」 自然体験事業「秋の木の実で染めよう」「そうめん流しとワイワイ夏祭り」 特別企画の「セミ羽化観察会」「ハロウィングッズを作ろう」「その他」を実施。 ・環境学習の受け入れ(1 回) 延べ 53 名 ・諸団体他 NPO 法人等との連携協力事業を実施。 【学習棟内の展示】 ①常設展示は、観察コーナー調べるコーナー・遊ぶコーナー生きもの展示があり、常に良好な状態を維持した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東播磨管内の行政、他 NPO 団体と日常的に連携し協力体制を維持、強化することで事業運営の向上につながった。 ・従来から蓄積した経験と職員研修や資格取得などで得た幅広い知識で事業を推進することができた。 ・いずれのイベント、セミナーも応募人数を上回る申し込みがある。リピーターも多くアンケート結果の分析により、実績が大いに評価されていると考えている。 ・季節に応じた学習内容を検討、事前準備も怠りなく進め内容の充実した環境学習が実施できた。 ・特に初めてのセミの羽化セミナーは大好評で次年度へつながった。

		<p>②季節展示は、6回の展示替えを行った。又、「切り絵」「あみぐるみ」(新規)等協力者による展示も行った。</p> <p>【魚のおうち管理】 水槽清掃、魚のエサやり、水温の管理等日常管理をした。又、休日にはボランティアの協力を得て魚の補充を行う等一定の維持管理を行った。</p> <p>【ちょうのおうち管理】 ボランティアの協力にてギフチョウ、アサギマダラ、オオムラサキを羽化させることができた。公園内でみられる蝶も一定量飼育した。又、ちょうのおうちで飼育しているクサガメの自然繁殖が今年もみられた。</p> <p>【ホタル育成事業】 ・少ない生育数を段階毎に分析を評価し良好な幼虫を 555 匹放流、5 月には 30 匹の出現があった。又、初トライで自力で産卵、幼虫飼育を行い、一貫したホタル事業を行った。幼虫飼育に成功し 12 月に地域の子ども達と 1,175 匹もの幼虫を大量に放流した。</p> <p>【アサギマダラプロジェクト(継続)】 フジバカマを増殖した。飛来は期待外れの 1 匹のみ。「ちょうのおうち」での飼育羽化により一般公開した。</p> <p>【兵庫大学とコラボ 4 年目】 ①「夏祭り」の企画・運営 学生 29 名参加 ②セミナー「我が家のお芋畑」のボランティア ・夏祭りは 3 年間の実績と反省から新規企画を盛り込み、内容充実及びスリムな企画、運営で効率よく活躍した。又、コロナ対策にも十分配慮した。 ・兵庫県青少年本部「ふるさとづくり青年隊」事業に参画し、2 名の青年を受け入れ、県の要綱に従った事業を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体の受入れや出張サービスは、他団体との協力体制を維持するうえでも必要であり継続した。 ・当施設にない文化的なものや伝統的な様々なものを展示することで、幅広く人々を呼び込み、多くの異分野の人々とも交流が増した。 ・展示では、生きもの展示や観察に目を向けるように工夫した。また、たくさんの本があるので子どもたちに興味をもってもらうよう昆虫の質問には子どもたちが自分で調べられるよう指導している。 ・生きもの相手であり、手を抜くと生育環境が悪化しやすいため、神経を使う管理である。 また、同程度施設の見学などまだ、実現できていない。 ・蝶の生育には時季があるため年中の飛蝶は、困難であるがボランティアの協力で、卵から成虫までの観察ができるようになった。 ・今年度の成功で毎年安定した出現数を確保する足掛かりとなった。 ・幼虫飼育技術も習得した。 ・アサギマダラのファンも多いので受け入れ態勢を継続した。地球温暖化で困難と思いつつ自然条件を整えば必ず大量飛来するものと期待。 ・近隣の教育機関とのコラボを継続することができた。公園最大のイベントの夏祭りは、人材不足となるがマンパワー的にも学生の新しい企画で、楽しさも大いに向上した。 ・地域にとっても当方にとっても有意義な協働である。 ・夏祭りはコロナ禍で人数の集まる最大のイベントであるが、工夫に工夫を重ね with コロナの新スタイ
--	--	--	---

<p>・利用者の満足度</p>	<p>・利用者との直接会話やアンケート等から判断して不満は少ない。</p> <p>・すべてのイベント・セミナーで申込者が増加し続けている。(募集後即定員に達するセミナーがある)</p> <p>・家族による昆虫採集、ザリガニなどの水生生物捕り、どんぐり拾いなどの自然遊びや団らんの場として多くの利用があった。さらにコロナ禍で、外出先が制限される中、家族単位での利用が増えた。</p> <p>・コロナ禍での外出の場所として大いに選ばれたと思う。</p>	<p>S</p>	<p>ルのイベントを実施、確立させた。</p> <p>・園内でのイベント、セミナーは常に開発し続けてマンネリ化しないように工夫している。公園ならではの活かし、ニーズにあったものに積極的に取り組んでいる。</p> <p>・幼児の園内利用はほかの利用者の目にも微笑ましく、続けられるよう安全に確保したい。安全の確保については、保護者の意見も聞き対応した。</p> <p>・さらに当公園の知名度を高めたり、環境管理の良さ、イベントの楽しさ等あらゆるプラス要素を利用者の満足度に直結させ来園者の増加につなげたい。</p> <p>・コロナ対策は、初期より行政の指導のもと最優先で取り組んだ。長期戦に向け with コロナ、新しい運営方法を取り入れた。</p>
<p>・その他 (特記事項)</p>	<p>【環境啓発事業】</p> <p>ため池ミュージアム事業に位置付けられた事業で、外来種駆除の一環として「夏祭り」に外来種展示コーナーを設け、専門講師からミシシippアカミミガメの生態説明及び解体の実演を行った。</p> <p>・トライやるウィークに於いて中学生 4 名を受け入れ、魚の世話、樹木プレート取り付け、ベンチ修理、外来種学習、公園管理など自然環境の大切さを指導した。</p> <p>・コスモス児童館との協働 親子 13 組が参加して「親子のつどい」で藍染め体験を実施した。</p> <p>・NPO 法人ころあい自然楽校との協働 12 家族が参加して藍染めを楽しんだ、又、クリスマスリース作りを楽しんだ。</p> <p>・コロナ禍にあって下記の交流・支援事業の中止となった。</p> <p>◎東播磨文化施設ネットワーク事業 ◎子育てフェスティバル ◎東播磨地区子ども会議 ◎全国フェアこどもひかりプロ</p>	<p>S</p>	<p>・ここ数年の取り組みに於いて、県民局、ため池協ミュージアム、町行政、NPO 法人、専門講師等との連携が濃密になり、協働事業としての成果が表面化するに至ったと考える。</p> <p>・トライやるに参加した生徒が、事業終了後にもよく訪ねてくれ、交流を重ね、当公園のボランティア要員として地域で活躍してくれているのが嬉しい。トライやるの一つの成果があると考えている。</p> <p>・これらの実績をベースとして活かしさらなる運営の上積みを図らなければならない。</p> <p>・共感できるほかに団体との交流により費用はかかるが得られるものも多く、当法人社員のキャリアユースと考えており、再開後は参加し、仲間づくりを進めたい。</p>

		ジェクト ◎その他外部での出展事業		
施設維持 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃 ・植栽等管理 ・警備 ・設備保守 ・修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃及び警備は委託とし、連絡協議により円滑に管理できている。 ・警備会社からの緊急連絡に円滑に対応した。 ・植栽管理は直営式とし、季節に応じた花壇整備を行った。 ・園内の折枝、高木の伐採計画を作成、行政にて実施。 ・園内の不必要な雑草除去は、必要に応じ社員により順次実施した。 ・保守修繕は、日常点検により早めの対応を実施した。 ・公園西側斜面の草刈管理は地元の営農者との共同作業とし、委託事業として実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内整備は、セミナーに対応しながら計画的に、草刈りや枝の剪定を行った。 ・建物、橋、護岸などの構造物は、安全上重要であり、適宜点検を行い、報告を行った、また、小規模修繕を社員が実施した。 ・エントランス花壇は、工夫したことで、来園者からも好評であった。 ・草刈などは、生き物の生育に考慮し、時季、範囲を明確にして実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他（特記事項） （施設修繕） 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察池東屋の修理 ②魚のおうちWCフロア修理等の施設修繕を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化対応等は応急処置を施しながら順次修理又は報告・連絡している。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 	42,379人/年 （実働 307日）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に毎年、家族連れの来園者が増加してきたが、今年はコロナの影響により約10%減少
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設稼働率 	138人/日	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年比17人/日減少
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> ・収支計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料と各種補助金やイベント・セミナーの参加費などの歳入に合う支出計画を実施した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、予算管理を行い、収支状況を把握しており予算管理上の問題はない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・社員の特性を活かし、できることは社員で対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの物資協力などもあり、効果的な削減ができた。
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての運営事業並びに公園の維持管理に支障のないよう適切に人員配置した。 大きなイベント等社員で不足する範囲はボランティアの協力で対応した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・通常は、できる限り2名以上の複数人配置を考えて、事務処理や来園者対応の体制をとった。但し、コロナ対応は可能な限り少人数とし社員の接触機会を減らすよう配慮した。・・・2グループにての勤務対応。
	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯と景観共に留意して樹木の伐採を行った。 ・台風被害の折れ枝等は、速やかに除去し飛ばないように処置した。 ・スズメバチなどは、日常点検及び来園者情報により速やかに処置した。 除虫剤を常備し緊急処置に備えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実。災害を想定した点検と勤務対応を心がける。 ・来園者の安全を第一に考えた管理を徹底している。 ・当公園の社員、利用者から感染者が出ていないことを踏まえた対応を続けたい。

		・新型コロナウイルス発生後は、行政の指導に従い社員及び来園者の安全を最重要視した対策を行った。		
	・苦情要望等への対応	・特になかった。	A	・細やかな要求や質問に対して丁寧に対応した。
	・個人情報の保護及び情報公開	コンプライアンスの事例による周知。情報公開への確認。	S	公園だよりやブログ、写真掲載などに対し、許諾を必須条件としている。 (全体確認済)
	・その他（特記事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・日常から地域と密接な交流を通じ、協働できる体制を維持した。 ・冬季に標本箱の消毒及び腐食した蝶の修復を行った。 ・身近な昆虫の標本を新作した。 ・昨年度臨時雇用した魚の飼育員が離職したことで、社員に若干の負担がかかっている。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターによる標本の整備により貴重な標本が大分よみがえった。今後も冬季に継続する予定。 ・魚飼育の詳しい人を雇用したいと考えている。
		総合評価	A	<p>水辺の里公園及び水族園常設展示施設の管理運営に係る協定書に従い、指定管理者としての能力を十分に活用し、地域住民等に対する文化活動及びレクリエーション活動を推進した。兵庫大学生ボランティアなど各種団体、地域住民との協働により事業運営を実施した。</p> <p>一昨年度末からの継続でコロナの影響で、多くのイベント、セミナーが中止になった。基本的には緊急事態宣言以外では、コロナ対策を十分に行い従来にない施策を考え「夏祭り」や「わが家のじゃが芋畑」のビッグイベントをこなすことができた。</p> <p>一方でこのことに批判の声も聴いたが、いち早くwithコロナを検討し、前向きに活動できたことは大きな成果の一つであると考えている。</p> <p>今後もコロナと共に安心して活動できる場を提供できるように推進する。</p> <p>まだまだ改善すべき点や向上要素があり今回もA評価としてさらにステップアップを図りたい。</p>

3 施設所管課による一次評価

総合評価	A
------	---

施設の維持管理は、協定書等に基づき適正に行われており、自主事業ではボランティアやサポーターなどの協力を得て準備から行うことにより、経費の削減や地域との協働を図っている。

ホタル育成事業では、緊急事態宣言発令により学習会は中止となったが、数多くのホタルの飛翔が見られた。また、一貫したホタル育成を目指して、卵の孵化に成功、1,000匹を超える幼虫を水路に放流し、次年度のホタル飛翔へ繋げた。

昆虫や魚などの飼育や管理を適切に行っており、季節に応じて展示を替えるなど創意工夫をしている。また、ため池ミュージアム事業と連携し、「夏祭り」に外来種展示コーナーを設け、専門講師からミシシippアカミミガメの生態説明や解体実演を行うなど環境学習も実施している。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により屋内施設の閉館など利用制限があり、多くの事業が中止となったが、感染症対策を講じることによりコロナ禍でも出来る限り事業を実施していこうという姿勢は大いに評価できる。

今後も「水辺の里公園」の名にふさわしく自然に親しむことのできる公園として、より多くの住民の憩いの場となるよう切に期待する。

4 内部検討委員会による評価

総合評価	A
------	---

管理運営については、協定書通りに行われていて適正である。

地域団体と連携したイベントや新規事業にも積極的に取り組んでおり評価できる。ホタル育成事業にも積極的に取り組まれ、コロナ禍ということで広報を控えたにもかかわらず、1000人も来園者があったこと、また、新しい取り組みにより利用者の開拓に努めている点が評価できる。新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努め、今後来園者のニーズに応じた魅力的なイベントの開催により、さらなる利用者の増加に努められたい。

アンケート結果から、利用者の高い満足度を得ていることが分かる。今後も後継者を育成するなど引き続き持続可能な運営体制を確保されたい。

5 外部検討委員会による評価

総合評価	
------	--

--